

「向かい愛」

ワソ童貞でもできた!

# 巨乳美女の堕とし方

※合本版

セフレ

セフレ差分

498枚

基本CG

18枚

彼女

セフレ



男、「種田タカシ」。

彼女ができないことに焦り、  
プライドを捨てることを決意。

勇気を出したら.....

クラスのマドンナを  
手に入れて.....♡



かつての同級生が……  
まさかのデカ乳だったことが発覚。

うおおおおお!!

もう少し!!もう少しで  
乳首が見えそうなのがいい!!

ちん。

してえ♡

ミドリもタカシク  
モノにしてえ♡

ミドリのおまん  
高〇の時から全部

高〇の時からずっとずっと  
好きだったのお♡

しかも、  
グイグイ来られて……

彼女いるけど  
やるっきゃない!……♡

2番目でも良いからあ♡

ミドリもタカシクんの  
おまんこも全部好き♡

浮気がバレて1人になったけど……  
新たなデカ乳女神が登場！



俺が返答に迷っているど。  
なぜかチカが服の紐をするすると解き始める。

カワイイ  
いっしょ  
ふせとすま。

もちろん  
元から目

た。た

お兄さんガチガチすぎる♡

出しちゃうのっ

チカにビュルビュル  
出しちゃうの？

ああ、出すぞ!!

初対面のチカに

もちろん、この雌を

逃すわけがなく……♡

綺麗になった元カノとの再会。

やっぱりこの子しかいない……！

タカシくんは最近どうなの？

奇えられそうにないからな。

俺もイク！！

イクぞレイナ！！

ああ！

やばい……！  
レイナのイク直前のマンコの  
相変わらず、すごすぎる……  
一気に搾り取られる……！！

タカシくん、だめ♡

きちやう♡

だめ♡

調教し尽くした体を

味わい尽くす……♡

ぬちゅ

ぬちゅ

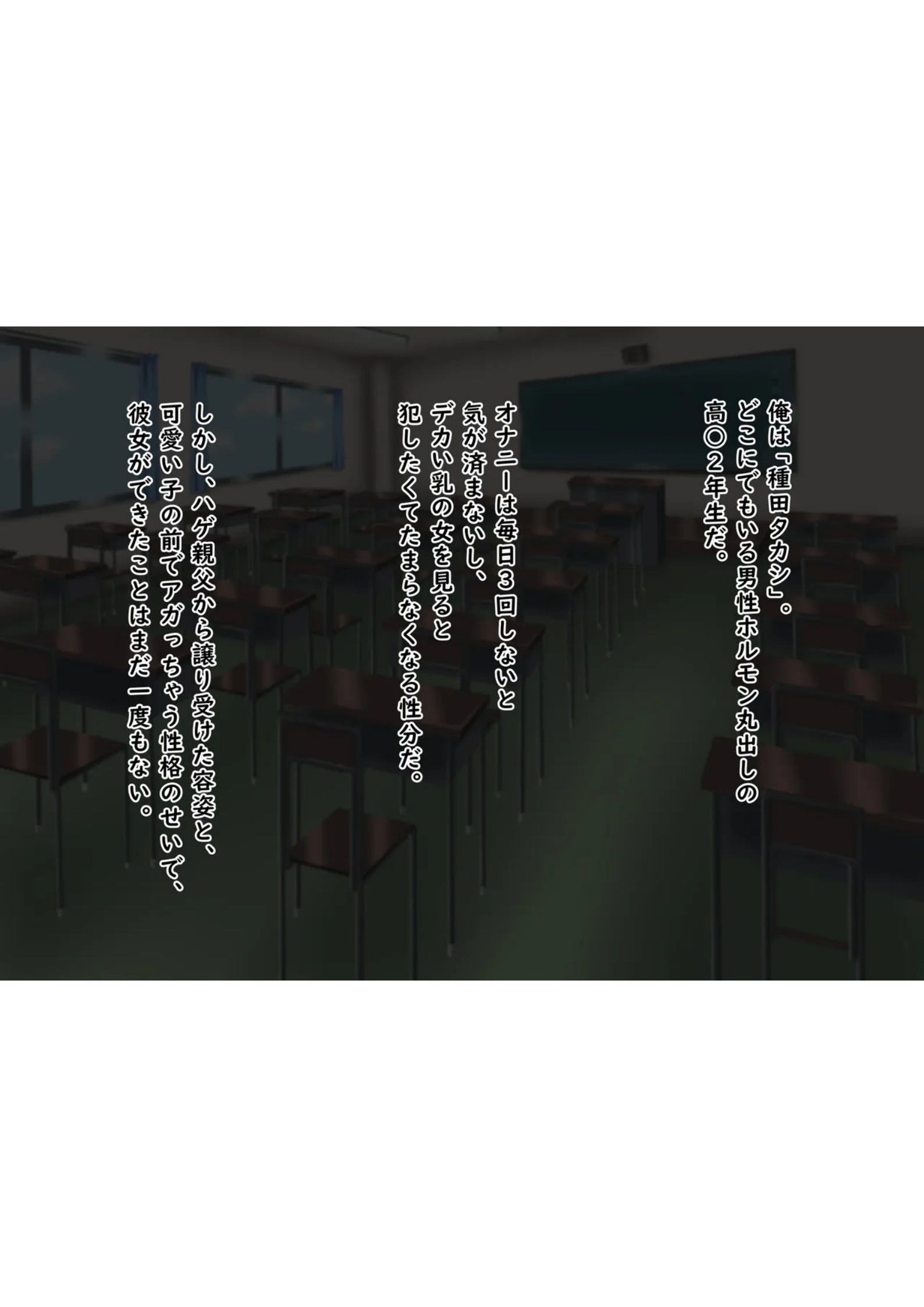
ぬちゅ

おのきちゅ

お♡

そして.....

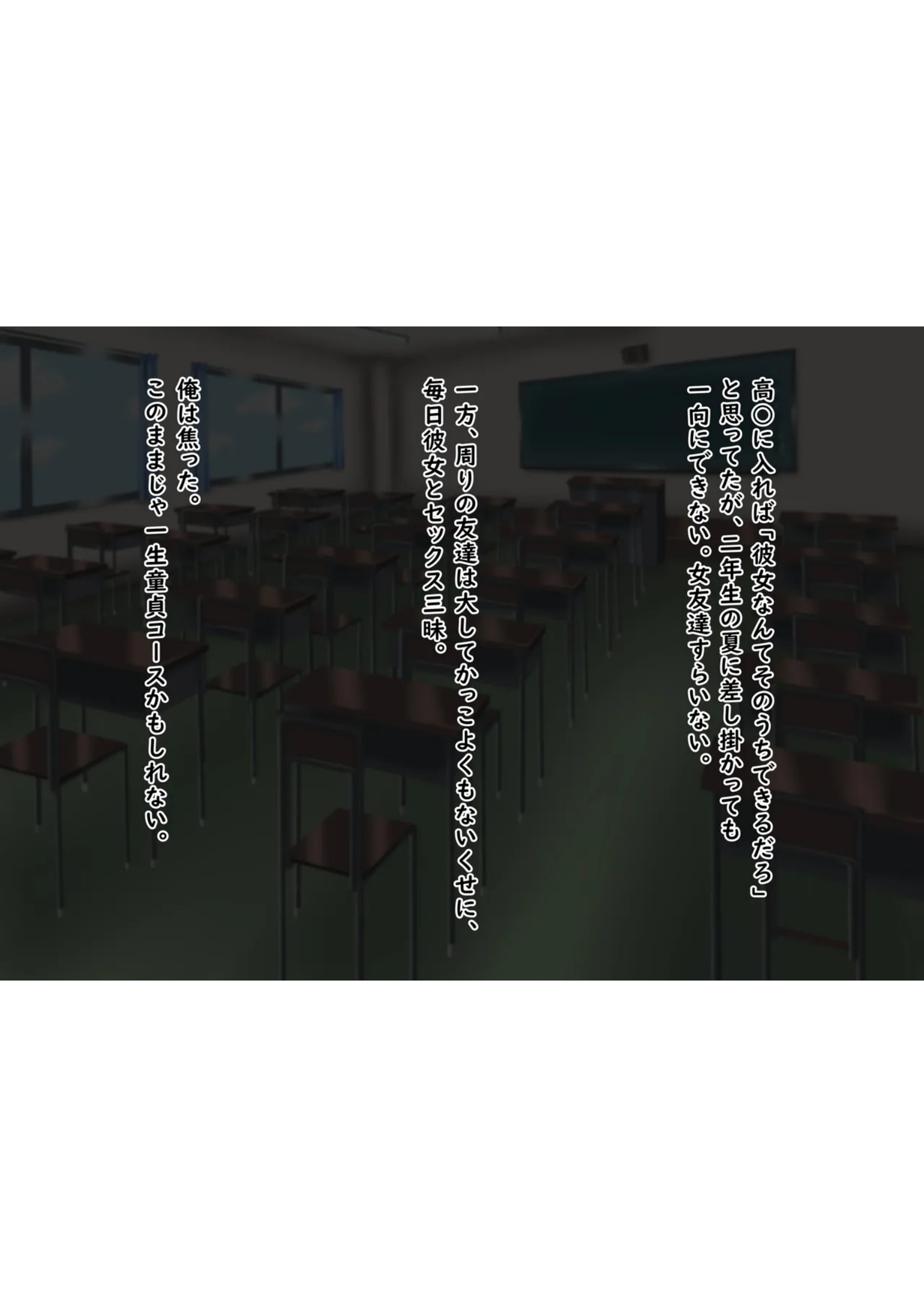




俺は「種田タカシ」。  
どこにでもいる男性ホルモン丸出しの  
高〇2年生だ。

オナニーは毎日3回しないと  
気が済まないし、  
デカイ乳の女を見ると  
犯したくてたまらなくなる性分だ。

しかし、ハゲ親父から譲り受けた容姿と、  
可愛い子の前でアガっちゃう性格のせいで、  
彼女ができたことはまだ一度もない。



高〇に入れば「彼女なんてそのうちできるだろ」  
と思ってたが、二年生の夏に差し掛かっても  
一向にできない。女友達すらいない。

一方、周りの友達は大してかっこよくもないくせに、  
毎日彼女とセックス三昧。

俺は焦った。  
このままじゃ一生童貞コースかもしれない。

そこで俺は彼女がいる友達と自分の差を徹底的に研究した。

性の伝道師、加藤ダイゴとかいう奴の、『女を落とす百のテクニック』といううさん臭い教材も全部買った。

そうやって研究していくうちに、彼女ができない一番の理由は「女の子にフラレたくない」という俺のチンケなプライドのせいだと分かった。

だから俺はそんなプライドは捨て、理想のハメまくりライフを手に入れるためにクラスの巨乳女の攻略を始めた。

では早速俺のターゲットについて話そう。

当然クラスの巨乳女子は全員ターゲットだが、  
最有力候補はクラスのマドンナである「早川レイナ」だ。



街を歩けば誰もが振り向く『美貌』と、  
シャツがはち切れんばかりの『デカ乳』を  
あわせ持つ『性の権化』。

クラスのほとんどの男子は早川で抜いているに違いない。  
かくいう俺も、一日一回は早川で抜いている。

もちろん、クソ童貞の俺にとって、  
早川レイナは到底、手に届く存在ではない。

…だが、可能性が1%でもあるならば俺は諦めない。



性の伝道師、加藤ダイゴも、

「女は心さえ奪えば、

イケメンでなくてもセックスできる。」

と言ってたからな。

朝、早川レイナが教室に入ってくる。  
幸運にも早川は俺の後ろの席だ。

胸を揺らしながらこちらに向かって  
歩いてくる早川の姿は、なんともたまらない。  
他の男子達もさぞ見惚れていることだろう。

そんな中、俺はすかさずルーティーンをこなす。

おはよう、早川





♪  
おはよう、タカシくん

今日も暑いね〜

くそ、なんだこの可愛い声とたまらねえ胸は!!  
こんな毎日見てたら  
他の女では勃起できなくなりそうだ!!

……あ、いかんいかん紳士的に返事しないと。



そんなに暑いなら、  
うちわ貸そうか？

昨日駅で貰ったんだ

タカシくんさつすが!!  
うちわ貸してほしい!!

パァァ

このうちわ結構大きいから  
すぐ涼しくなるよ

早川は俺からうちわを受け取ると  
後ろの席に着席する。

後ろを振り向くと、  
暴力的なまでに大きい乳が机の上に乗っていた。



……というか、そのシャツ、  
サイズ合ってなさすぎる。

……エロいから良いんだけど。



タカシくん  
いつもありがとうっ

この間も傘貸して貰っちゃって  
お世話になりっぱなしだね

たまたまだから  
気にしなくていいよ

もちろんたまたまじゃない。



俺のカバンには、うちわ、ハンカチ、  
文房具2セット、折り畳み傘など…  
学校生活で必要になりそうなものを  
一通り用意している。

でもでも悪いよ。  
今度なんか恩返しさせて！

ふ、狙い通りだ。  
人には、「恩を受けると恩返しがしたくなる性質」  
があるらしいからな。  
今回はそれを利用した。

結果、早川から俺にチャンスを与えた。





うん  
じゃあ、英語で分からないところがあるから今度教えてくれ。

早川得意だろ？

♪  
もちろん  
英語なら任せて!!

他は全部タカシ君に負けちゃうけど、  
英語なら大丈夫!

くそお、本当は恩返しに  
「そのデカ乳を揉ませろ」と言いてえ!!

この女に俺のチンポぶち込んで喘がせてえ……!!  
こっちは見てるだけで勃起が止まんねえんだぞ!!

まかせてね!

ぱん  
ぱん

その時、俺の聞き耳スキルが発動する。





ちっ。

種田の野郎、  
また早川さんの  
ポイント稼ぎやがって

ひゃ

ひゃ

ひゃ

なんか最近、早川さんの  
態度も変わってきたね？

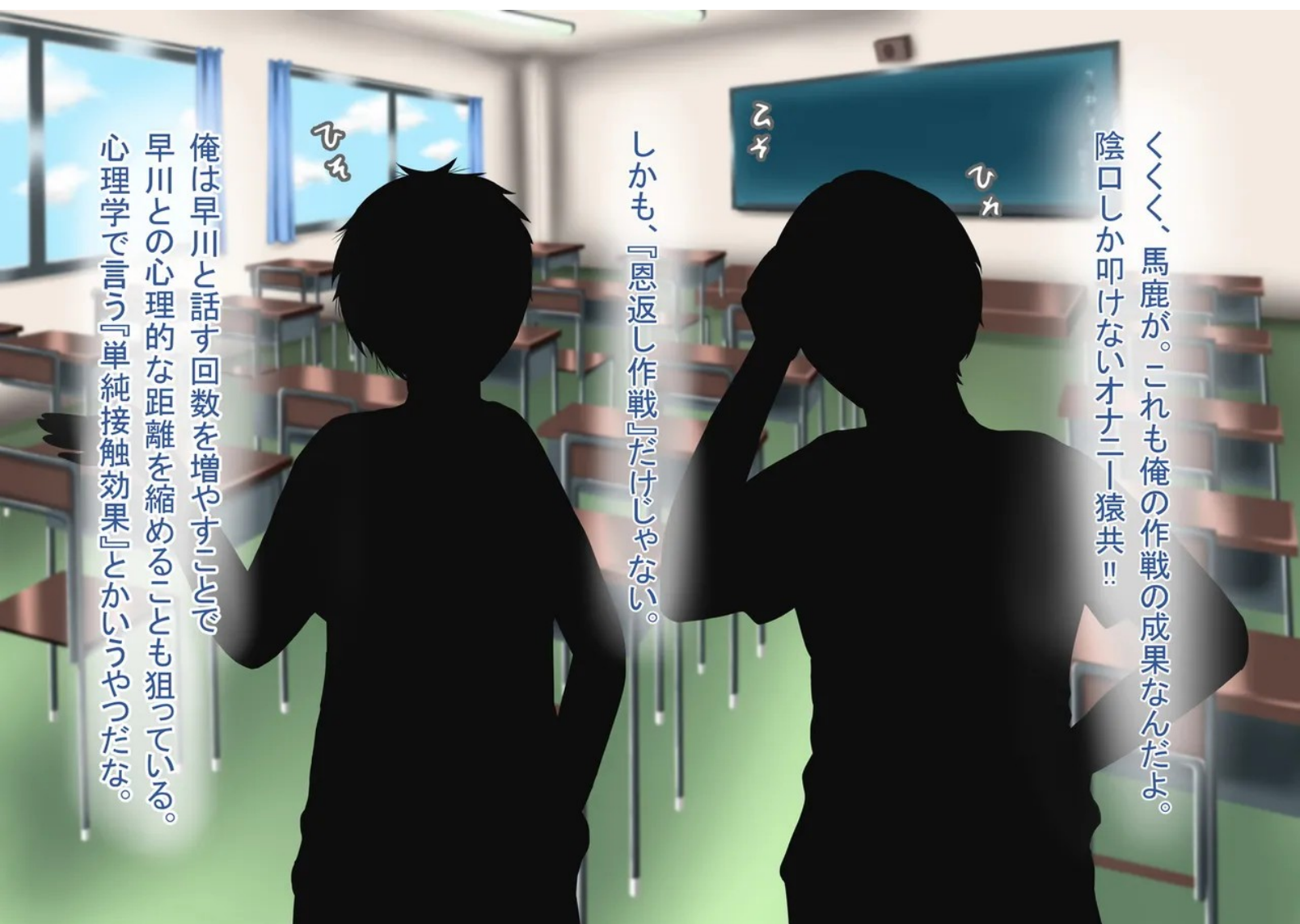
んな、まさか……

早川さんが、種田なんか  
相手にするわけないっしょ

くくく、馬鹿が。これも俺の作戦の成果なんだよ。  
陰口しか叩けないオナニ猿共!!

しかも、『恩返し作戦』だけじゃない。

俺は早川と話す回数を増やすことで  
早川との心理的な距離を縮めることも狙っている。  
心理学で言う『単純接触効果』とかいうやつだな。



もちろん作戦の効果は出ていて、  
最初はちよつと驚いていた早川も  
今じゃ当たり前のように挨拶を返してくれる。

しかも、最近自分から  
話題を振ってくれるようになった。

パフ  
パフ



まじでこれは早川の体にあつけるんじゃないかねえか？

さすが性の伝道師、加藤ダイゴの作戦だ。

もちろん、早川が実は俺のことを  
キモいと思っている可能性も十分にある…。

だが、そんなことはどうだって良い。

夏だね

体におしゃぶりつかせてくれない女など、  
俺にとっては、この世にいないも同然。  
どう思われたって構わないのだ。

とにかく愚直に、且つ紳士的に、  
接触回数を増やしていく。これだけだ。



その時、うちわをパタパタしてた  
早川から何かが飛んできて  
おでこに当たった。

痛ッッ!

ボタン……?

??

あれ?  
タカシくん大丈夫??

パン

!?



うおおおお!!

早川の極上のデカ乳谷間が  
お目見えになっているううう!!

舐めてえ!! 揉みてえ!!

むしゃぶりつきてえええ!!

これまで服越しにしか

見れなかった肌が!!

下着がああああ!!

バンバン  
ドキドキ  
ドキドキ  
ドキドキ  
ドキドキ

どうやら、  
自分の胸元がパツカリ開いていることに、  
早川は気づいていないみたいだ……。

……くそっ！  
そろそろ指摘してあげないと  
俺が腐れスケベだと思われるな。

は、早川……  
その、胸が……





早川、顔真っ赤で可愛いな……。

……いかん、見惚れている場合じゃない。  
これはチャンスだ。

きやあつ!!

へ………?

ビッ

バイーン

嫌かもしれないけど、  
とりあえずこれで隠しな

あわわわ

ひ

やっさ

やっさ

俺はすぐさま自分の学ランを早川に渡す。

とりあえず隠すものが必要だろうと思ったからだ。



早川は一瞬驚いた顔をした後、  
申し訳なそうに学ランを受け取った。

顔がさっきより更に赤くなっていた。

かみみあ

ありがとうございます  
見苦しいものを  
お見せしましたあ



まさか早川からデカ乳の  
話題を振ってくれるとは……!!

恥ずかしさのあまり話題に出したつてところか。  
ここは自然に褒めておこう。

あの…

うんうんわっ。

いえいえ、「こちらこそ  
ありがとうございます」

……!!





かなあな

も、もう！タカシくんのおバカ!!  
エッチ!!





ちよつと嬉しい、けど……

ワッ

早川のこの反応はどう見ても照れ隠しだろ。

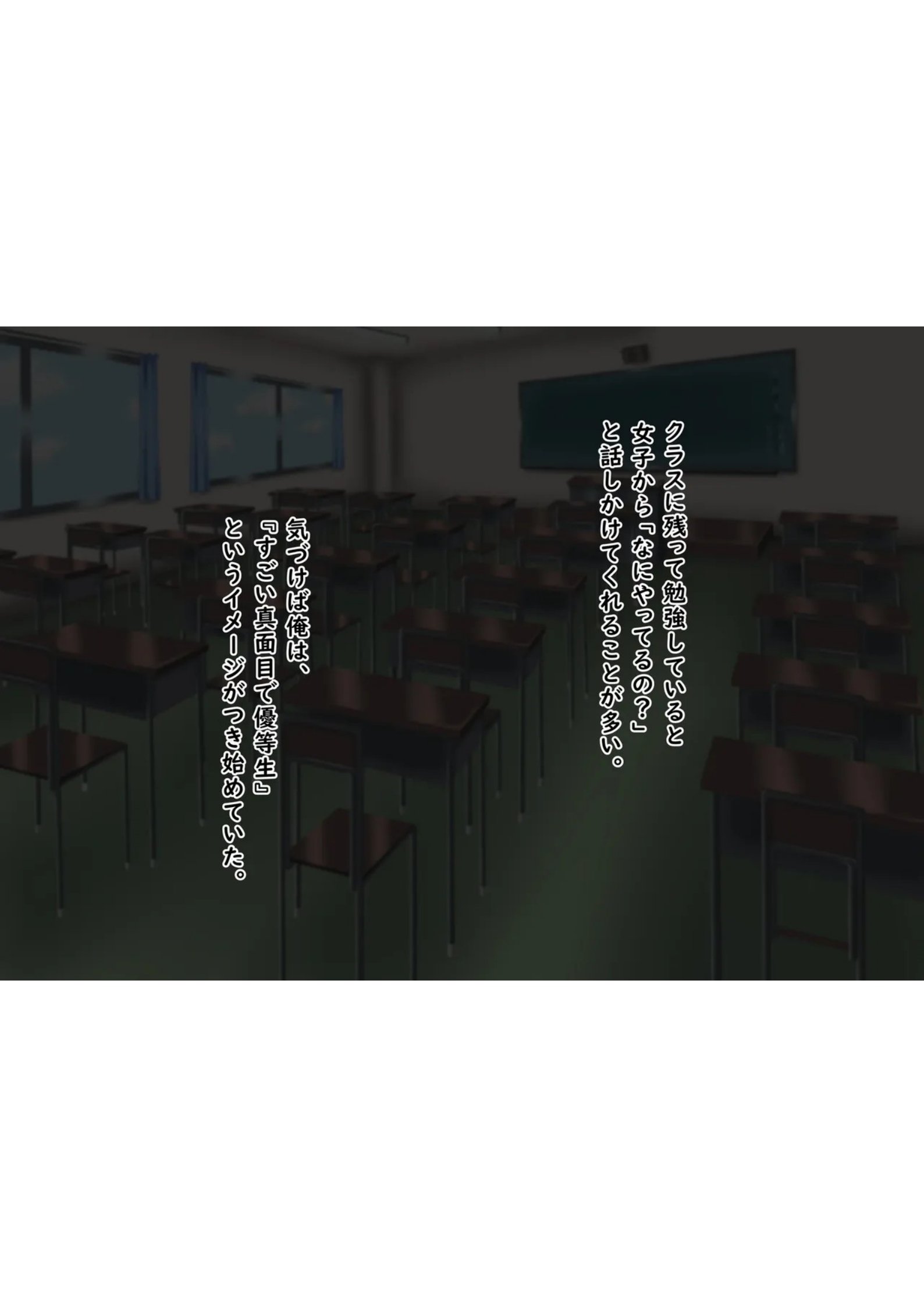
……これは、マジでいけるかもな……



それからしばらく経ったある日の放課後…

帰宅部の俺は、授業が終わっても教室に残り、  
その日の復習をするようにしていた。

何でかって？  
それはもちろん女子と仲良くなる  
きっかけ作りの一環だ。



クラスに残って勉強していると  
女子から「なにやってるの？」  
と話しかけてくれることが多い。

気づけば俺は、  
『すごい真面目で優等生』  
というイメージがつき始めていた。

た、種田くん、  
今日も勉強してるの？

すごいね。

こいつは「朽木ミドリ」。  
たまにこうやって話しかけてくる女子のうちの一人だ。

顔は結構美人なんだが…  
いかんせん胸がないので  
俺のターゲットからは外している。



あまり手を広げすぎると、  
女好きの噂が流れちゃうからな……。  
それだけは避けないと……。

まあしかし……クラスの巨乳女全員に  
振られたら朽木にいつてみようかな。  
なんかチヨロそうだし……。

なんかチヨロそうだし……。





朽木、ありがとう

まあいつも通り  
復習してるだけだから  
なんてことないよ

ふふっ

普通の人から  
したらずっと続ける  
なんてできないわ



種田くん、も、もし良かったら  
わたしにも勉強を……

朽木の話聞いてみると、  
後ろから美声に割り込まれる。

ねえ、タカシくん「」  
教えてくれない？

振り向くと、早川が教科書を指差していた。

んー、いつもより声に  
刺があるように感じたが、  
気のせいだよな……？

むっ

ああ、良いぞ。  
ここは〇〇だから  
××になって……



そろそろ期末テストが近いから、  
最近の早川は俺に勉強を教えてほしいと  
お願いしてくることが多い。

本当に居残りは最高だ。

そろそろデートか何かに誘ってみても  
良いかもしれない。



あー、にしても毎日こんな

デカ乳を見せられて俺もそろそろ限界だ……。

最近はや川のデカ乳を眺められる  
時間が多くなってきたから、  
精子が大量に作られすぎて  
トイレで抜いたりしている。

まじで歩く凶器。男殺しの女だ。





タカシくんは本当に  
頭が良くてすごいなあ……

なるほど！  
とうやって解くんだ！



もっともっと  
私にだけ教えてほしいなあ……

ねえ……

ドキ

ドキ

ドキ

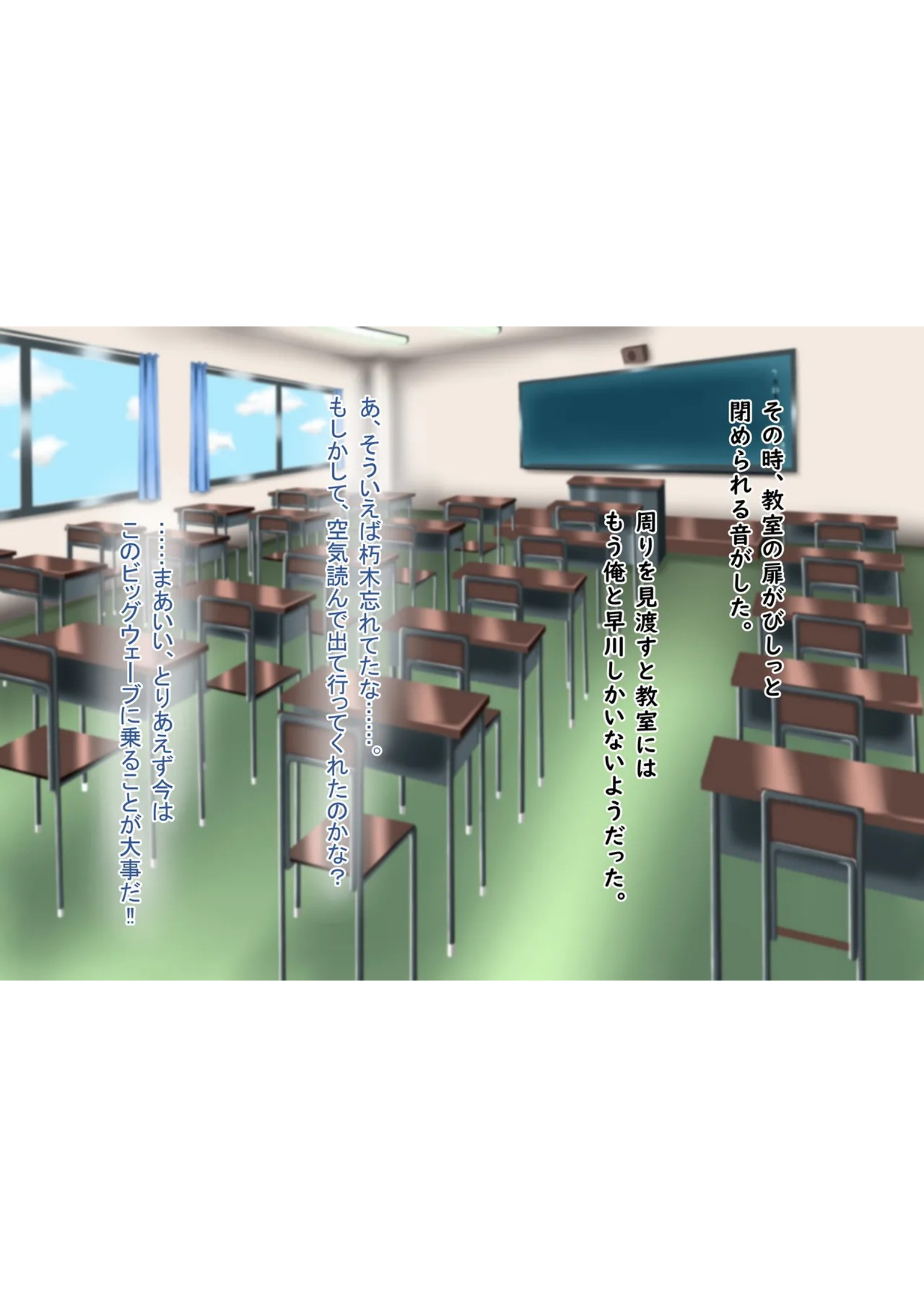
??????

私にだけって何だ!!

それは2人きりで教えていいのか!!



保険体育の子作りのところを  
入念に教えたいんだが、それはありなのか!!



その時、教室の扉がびしっと  
閉められる音がした。

周りを見渡すと教室には  
もう俺と早川しかいないようだった。

あ、そういえば朽木忘れてたな……。  
もしかして、空気読んで出て行ってくれたのかな？

……まあいい、とりあえず今は  
このビッグウェーブに乗ることが大事だ!!



ほんと？

パァァァ

ああ、早川になら  
いくらでも教えるよ



……え、それって……  
名前で呼んでいいの？

ムッ

でも、そろそろ、その  
『早川』ってやめてほしいな



私ばかり『タカシくん』で  
名前呼びだし……

が  
あ  
あ

わたしも  
名前で呼ばれたい……かな

ドキ

ドキ

ドキ

待て待て待て。

これ、いけるんじゃないか??

明らかに早川から

隙を見せてきてるだろ!

これはこのデカ乳女神を

俺のものにできるんじゃないか??



俺は意を決して、  
一気に畳み掛けることにした。



ドキ

そんなのいくらでも  
呼んでやるよ。レイナ



自分で言つといて  
すつごく恥ずかしいけど、  
嬉しい……

が  
あ  
あ

〜

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

もう行く。決めた。

今日この女を落とす!!

「タイミング」が全て」って  
性の伝道……(以下略)





レイナ……  
俺はレイナのが好きだ





私なんかで良いの？

え!? ほ、ほんと？

ドキドキドキドキドキ

レイナじゃなきや  
ダメなんだ

俺はレイナの手を触る。

嫌がられたら終わりだが、  
この流れならいける!!  
このままキスまで持っててやる!!





ど、ど、ど、うしよう……。  
すっごく嬉しい

俺と付き合ってほしい

よし、しっかりと言葉にして  
想いを伝えたぞ!!  
逃さんぞ早川レイナ!!

レイナはどうしようどうしよう  
という感じで俯いている。

かみみあ

俺は、レイナを焦らすことなく  
返事を待っていた。

ドキドキドキドキ



タカシくんは私のこと  
いつも気にかけてくれて……

私が困ったら  
かっく良く助けてくれて、  
頭もすくく良くて……

めっちゃめっちゃ作戦効いてる!! すごい!!

……だ、だから私も  
タカシくんが大好きです

ふっつか者ですが、お願いします

きた！まじできた！！

俺が、早川レイナを落とせた！！

うおおおおおおおお！！

え？待って、夢にまでみたこのデカ乳を  
俺のモノにできるってことだよな？？？



そうと決まれば、やることは一つ!!

俺は机越しにレイナへキスをする。

タカシくん...♡

男の人との初めてのキス.....♡  
すごくエッチな気分になっちゃう♡

ドキドキドキドキドキ



俺とレイナは机越しに抱き合いながら  
クチュクチュと舌を絡ませ、唾液を交換し合う。

レイナの舌の感触が気持ちよすぎて、  
もう俺のチンポはギンギン。

挿れたい挿れたい挿れたい挿れたい。

男を興奮させることに特化した  
この女のマンコに俺の精子をぶちまけたい。



キスを終わると、二人とも恥ずかしくなって  
目が合わせられなくなる。

だが、ここで止まることは許されない。  
今日、絶対にレイナとセックスする。



俺は意を決して、  
ズボンとパンツを脱ぎ  
ギンギンになったチンポをレイナに見せつけた。

タカシくんの……すごく大きくなってる……

なんてたくましいの……♡

こんな太いの挿れられたら……  
私、どうなっちゃうんだろ……♡

レイナはしばらくの間、  
俺の勃起チンポに釘付けになっていた。

そして、惚けた顔でうつむくと、  
その手を胸元に運んでいった。





ね、タカシくん。私もう我慢できないよ……♡



この世のものとは思えない光景が

目の前に広がっていた…。



夢かと疑いそうになるくらいエロい……

あのクラスのマドンナである早川レイナが  
俺の前で全裸で股を広げている……

この美しい裸体を見るだけで、  
果ててしまいそうだ……



俺はパンツを脱ぎ、  
いきり立ってピクピクしている  
チンポをレイナに見せつけた。



カー  
カー

タカシくんのおチンポ…  
グロテスクなのにすごいえっち…♡

それに、すごい匂い……

こんなの挿れられたら私どうなっちゃうんだろ……♡



レイナのマンコ、  
小っちゃくて可愛い……

気づくと俺は、  
レイナのマンコにチンポをこすりつけていた。



レイナのマンコからエッチな汁が溢れ出す。

なんて淫乱な光景なんだ……

ああ……  
もうだめだ……



俺は万が一のために用意していた  
コンドームを装着すると、  
レイナのマンコの前にチンポをセットする。

レイナ、挿れるぞ……

ひと……

ドキ ドキ ドキ ドキ

来て、タカシくん…

やべえええええ！  
セックス！  
セックス！！

ついに女のマンコを味わえる日が来た！！  
しかも相手はあの早川レイナ！！  
たまらねえええ！！



俺は鬼頭までチンポを挿入する。

あ、やばいもういつちゃうぞコレ……。  
レイナのマンコすげえキツキツだ……。



ま、待って……。これ、ダメえ♡

おまんこがゴリゴリって  
かき分けられてるう♡

鬼頭だけでこれなのに、もし全部挿れられたら  
どうなっちゃうの……？





レイナの声になってない返事を聞いた俺は、

チンポを一気に  
マンコの奥へ突き刺した。

グアグア



レイナが激しく体を震わす。

恐らくイッたのだろう。  
俺もあまりの気持ちよさにいきかける。



……だ、ダメだ。

レイナのおマンコめちやめちや吸いついてきて、  
まじで気持ち良すぎる……。

これ、少しでも動いたら即イっちゃまう……。

だが、動きてええええ!!



なんとかイクのをこらえた俺は、ついに腰を動かそうとする。

う、動くぞ……



イッた余韻がまだ残っているのか、  
レイナの返事は聞けなかったが、

俺はレイナに腰を激しく打ちつけた。





パンパンと普通の教室ではあり得ない音が響き渡る。

っあ♡っあ♡  
んん♡んあ!!♡

レイナ！レイナ！！  
なんてエッチな体なんだ！！

んあ♡タカシ、くん♡  
もっとレイナのこと触ってえ♡

レイナにおねだりされた俺は  
いつも夢見ていたデカ乳へと手を伸ばす。

張りのある豊かなふくらみを揉みしだくと、  
俺の興奮度はマックスに到達した。



あー、なんて感触だ。間違いなく  
この世で一番エロい触り心地だ。

ふにやふにや柔らかいのに  
しっかりとした弾力もあってエロすぎる!!



おっぱい、気持ちいい♡  
もっと、もっと激し〜♡

俺はレイナのデカ乳を軸に  
さらに激しく腰を打ちつける。

腰を振る度に、  
レイナのマンコがどんどんきつくなっていく。



やばいよ♡すっぴいのキてるぅっっ  
初めてなのに、はしたない姿見せちゃっっっ♡

レイナの中が一段と締まる。  
俺もそろそろ限界だった。

レイナー奥に出すぞ!!  
ゴム越してレイナのこと孕ませるぞ!!



タカシくんの……すごい太くなってる……  
精子出しちゃうんだ……♡

あ、ダメ……  
そんな太いのでゴリゴリ掻き回されたら

私……もう……  
イっ……



これが本当の射精!!  
ティッシュに向かって出すのとは訳が違う!!

雌を孕ませようと  
全身で射精してる!! 気持ち良すぎる!!



まるで絞りつくされた感覚だった。



レイナも気持ちよかったのか  
とろんとした目をしていた。

レイナ、  
気持ち良かったか？

だ、大好きなタカシくんと一緒にイけて、  
すごい、気持ちよかったよ……

あっ

レイナに大好きと言われ、  
俺の欲張りチンポは  
また勃起してしまう。

やべえ、  
またムラムラしてきた……

レイナ、俺もう……



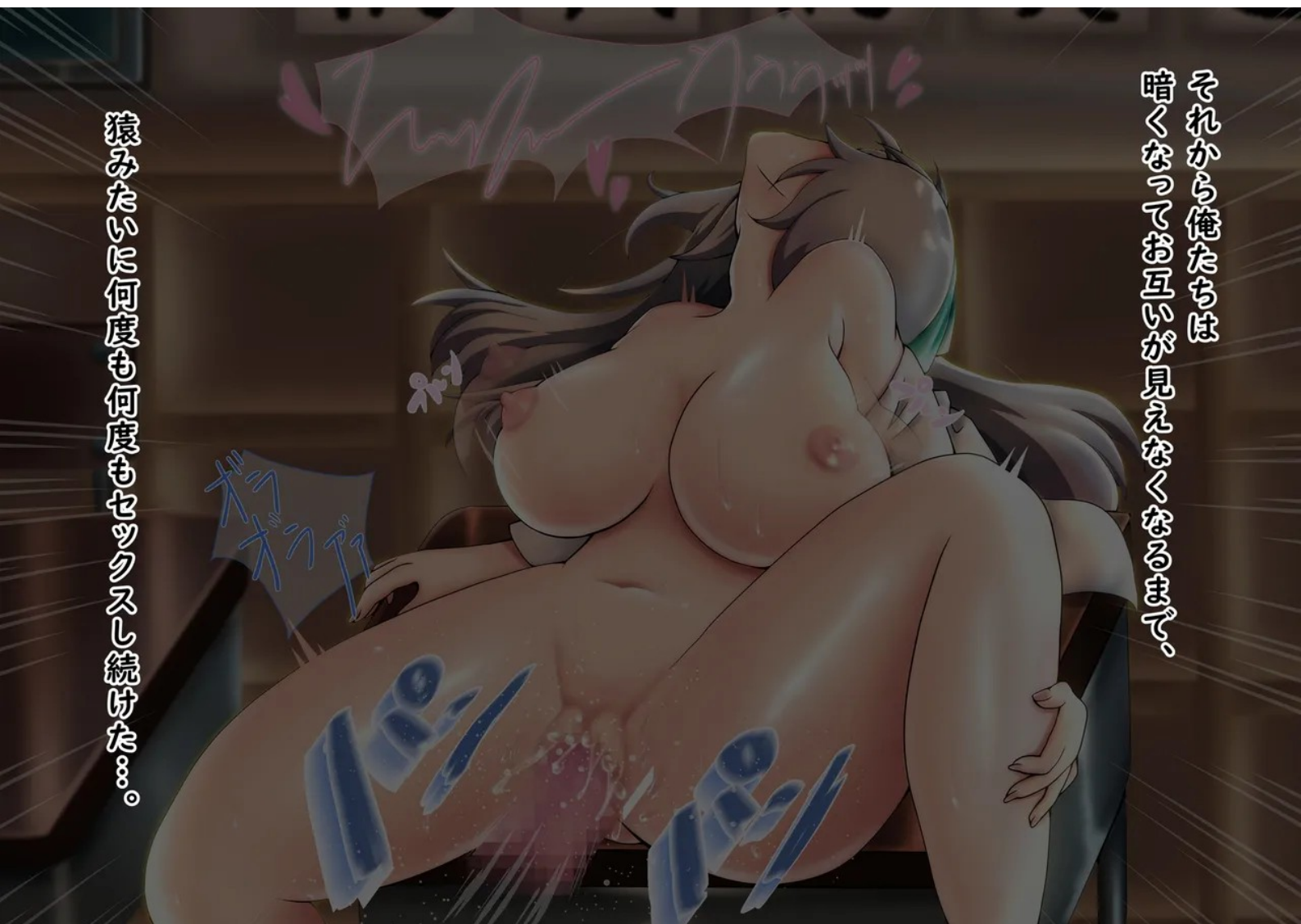


タカシくんのエッチ……

好き……♡

それから俺たちは  
暗くなってお互いが見えなくなるまで、

猿みたいは何度も何度もセックスし続けた…。







体験版はここまで♡

続きが気になった方は、  
ぜひ本編を見てみてね♡

最新情報 ● twitter: @muramurapara